

篠山東雲高校周辺の野生動物

稲岡大晟・藤田明士・園田宇響・田中裕将・坂本康輔・山本晃生
(兵庫県立篠山東雲高等学校 自然科学部)

はじめに

近年、野生動物による農作物への被害が増えている。丹波篠山市東部に位置する篠山東雲高校の農場も例外ではない。そこで、野生動物から農作物を守るために本校周辺の野生動物の実態を調査することにした。

方法

(1) 調査月

2019年4月～9月

(2) 調査場所

篠山東雲高校(丹波篠山市福住)農場の周辺(図1)

A地点: 栗(幼木)園地

B地点: 栗(成木)園地

C地点: 農場の南端

D地点: 野生動物防護柵の外(杉の植林地)

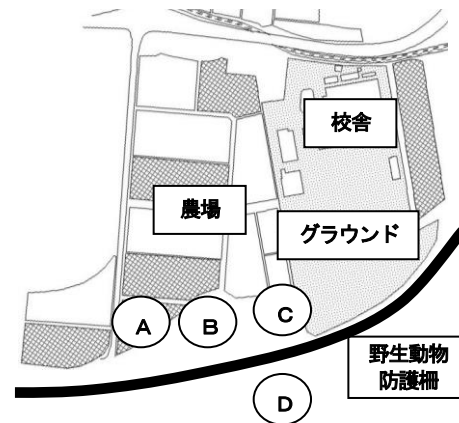


図1 調査場所

(3) 調査方法

デジタル式スカウティングカメラを4ヶ所(A～D地点)に設置し、カメラのセンサーが感知した野生動物を10秒間の動画を撮影した。撮影できた野生動物の種類、個体数、撮影時刻等を記録した。

結果と考察

調査した6ヶ月の間に撮影できた野生動物は延べ145個体であり、そのうち約81%がニホンジカ(図2)で続いてイノシシ(図3)だった(表1)。



図2 ニホンジカ



図3 イノシシ

ニホンジカの約8割はD地点で撮影されたものであり、防護柵により農場への侵入は防ぐことはできている。しかし、2割のニホンジカは何らかの方法で防護柵を超えて侵入していることがわかった。調査は半年しかしていないが、7月のニホンジカの撮影回数は少なくなっている(図4)。その理由として、雌シカが出産と子育ての時期になり、安全な山の奥のほうに生息場所を変えているのではないかと考えられる。また、ニホンジカの撮影された時刻は20時～24時に多いこともわかった(図5)。

本研究は、まだ継続中であり今後多くのデータからニホンジカをはじめとする野生動物の生態を明らかにしていきたい。そして、野生動物による農作物の被害を防ぐ方法を検討していきたいと思っている。

表1 撮影できた野生動物

種類	撮影回数	割合
シカ	118	81.4%
イノシシ	9	6.2%
サル	4	2.8%
タヌキ・キツネ・アライグマ	3	2.1%
鳥類	9	6.2%
不明	2	1.4%

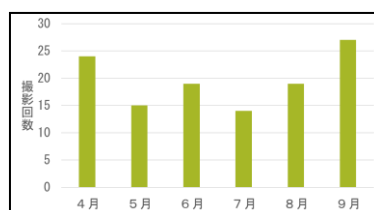


図4 月別の撮影回数

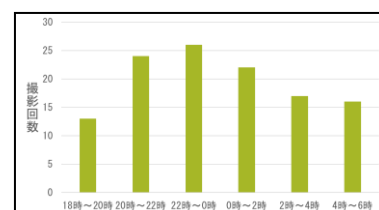


図5 ニホンジカの撮影時刻